

西東京の教育



2020.11.15 / No.91

topics

- ① 市指定文化財を見に行こう!!
- ② 郷土資料室へ行こう! ほか
- ③ 教育委員会の防犯への取組
- ④ 新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた取組 ほか

市指定文化財を見に行こう!!

西東京市には、50の市指定文化財があります。
 芸術の秋、市内を散歩しながら見学できる市指定文化財の一部をご紹介します。
 各市指定文化財の詳細については、市ホームページでも公開しています。



©T&K / 西東京市



◆社会教育課 042-420-2832

地図番号+名称

- ①市指定番号
- ②所在地
- ③説明

3 六地藏菩薩立像

- ①市指定第 37 号
- ②住吉町1- 2-12 (東禅寺)
- ③幕末の万延元(1860)年に上保谷村の東禅寺の檀家信徒たちの念仏講が建立したもので、主尊を中央に置く七体六地藏です。江戸時代に入ると六地藏の信仰が庶民に広まり、各地に六地藏石仏が建立されました。



5 総持寺のケヤキ

- ①市指定第 33 号
- ②田無町3- 8-12 (総持寺)
- ③天保 13 (1842) 年から嘉永 3 (1850) 年にかけて総持寺の本堂を再建した際に、その落慶を記念して植えた樹木のうちの1本であるといわれています。
- 田無地域における最大級の単幹の樹木です。



7 北芝久保庚申塔

- ①市指定第6号
- ②芝久保町4-12-48
- ③庚申塔とは、庚申信仰に基づいて建てられた石塔です。「見ざる、言わざる、聞かざる」の三猿像と共に青面金剛像が表されているものが多いですが、これには青面金剛像がなく、古い作風を伝えます。延宝2(1674)年の建立です。



1 天神社拝殿

- ①市指定第 50 号
- ②北町6- 7-19
- ③かつては下保谷村の鎮守として日蓮宗の三十番神を祀っていた天神社は、菅原道真を祭神と改めた後も、地域の人々に崇められています。
- 拝殿は天保5(1834)年の建築とみられ、波や龍の漆喰彫刻は、幕末期の建築意匠を色濃く反映しています。



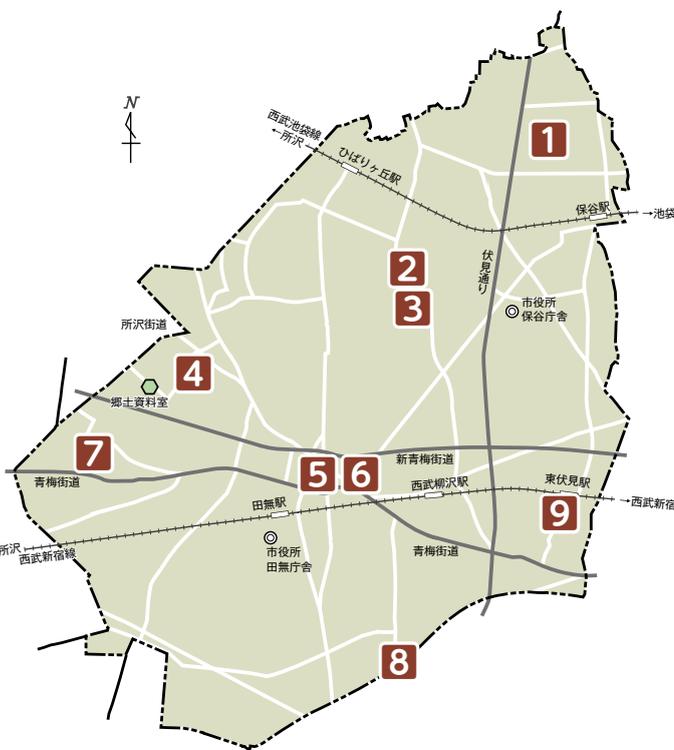
2 石燈籠一对

- ①市指定第 39 号
- ②住吉町1-21- 1 (尉殿神社)
- ③江戸時代前期の天和2(1682)年に、本殿両脇に建立された石燈籠です。背面に彫られた「上保谷村惣氏子」の銘文は、尉殿権現社が古くから上保谷村の惣(総)鎮守であったことを示す貴重な記録です。



4 蕪山笠(名主用)

- ①市指定第 13 号
- ②西原町4- 5- 6 (郷土資料室)
- ③江戸時代末期の文久3(1863)年に、伊豆の蕪山代官である江川太郎左衛門が考案した、農兵隊の制服帽です。日本の武将の陣笠とフランス軍の帽子の形とを折衷しています。



6 獅子頭(雄獅子・雌獅子)

- ①市指定第 10 号
- ②田無町3- 7- 4 (田無神社)
- ③神前に奉納する獅子舞の獅子頭で、金箔で仕上げられています。2頭の獅子頭は、田無村上宿と下宿が神楽を競い、毎年収穫の豊凶を占ったといわれていますが、後には雨乞いの際の獅子頭として利用されました。



8 文字庚申塔

- ①市指定第 20 号
- ②新町1- 2
- ③天明 4 (1784) 年に上保谷新田の講中により建てられたこの庚申塔は、「五穀成就」と彫られています。これは、ほかの庚申塔には見られない特徴です。



9 榛名大権現石造物群

- ①市指定第 38 号
- ②東伏見2- 6-13 (氷川神社)
- ③榛名権現社は、大正4(1915)年に神社合祀令によって尉殿神社に合祀されました。それから69年後の昭和59(1984)年、榛名の神はようやく故地に正式に戻りました。その由緒を伝える文化財です。

